

データによる客観的な自己分析と 計画的な学習で自己統制力を育む

佐賀県 鳥栖市立田代中学校

鳥栖市立田代中学校では、学校生活のあらゆる活動をキャリア教育と関連付け、自ら考え行動する生徒の育成を目指している。活動の過程では、定期的に自らの取り組みに関する意識や実態調査を行い、教師の生徒把握の他、生徒が自らの取るべき行動や選択を考えられるように促している。

学校生活のあらゆる場面で キャリア教育の機会と捉える

鳥栖市立田代中学校は、学校教育目標に「夢や目標をもち 主体的に学び行動する生徒の育成」を掲げ、キャリア教育の視点を重視した教育活動を行っている。しかし、池之上義宏校長が考えるキャリア教育は、職業調べや職場体験といった進路学習にとどまらない。

「私は、日本の教育の弱点はキャリア教育にあると思います。本来のキャリア教育は、朝のあいさつに始まり、授業、掃除、学校行事など、学校生活のあらゆる場面を通して、

生徒の人間関係形成力や自己管理能力、課題対応能力などを高めていくべきものだと考えます。しかし、多くの場合、取り組みはそれぞれに行われ、相乗効果を発揮していないようです。生徒指導や教科指導にもキャリア教育の視点を盛り込み、生徒が学校で得た体験を、自分の生き方や毎日の生活に落とし込む機会を、出来るだけ多く用意することが重要だと考えています」（池之上校長）

このような考えを持つ池之上校長の下、2009年度から「田代中 みんな頑張るAMB！」を合言葉に生徒指導や教科指導のさまざまな場面で生徒の主体性や社会性を育む

School Data

◎1947（昭和22）年開校。サッカーの街鳥栖市北部のベッドタウンに立地する。2012年度、鳥栖市より小中一貫教育の研究指定を受け、近隣の小学校3校と連携事業を推進。



校長◎池之上義宏先生

生徒数◎554人 学級数◎18学級（うち特別支援学級3）

所在地◎〒841-0016 佐賀県鳥栖市田代外町 651-1

TEL◎0942-83-2758

URL◎<http://www3.saga-ed.jp/school/tasiro-j/>

公開研究会◎未定

取り組みに力を注いでいる。Aは「あふれる笑顔に 元気なあいさつNO.1」、Mは「磨こうよ 校舎ピカピカ 心もピカピカ」、Bは「勉強は計画的に頑張ろう』『継続は力なり』のそれぞれ頭文字だ。その具体的な取り組みを見ていこう。

◎生徒指導での取り組み①

田代中版「マナー検定」で人間関係における礼儀の重要性を認識させる

生徒指導は、学校生活の土台となる力を生徒に築くものとして、どの学校でも重視しているが、同校では服装やマナー、清掃活動を

図1 「マナー検定」自己点検表

第1回 マナー検定 自己点検表 年 組 号 氏 名
 日頃から、身だしなみ・服装はきちんとできているかな？検定を受ける前に自分を見つめてみよう。

点検項目	○△×	点検項目	○△×	点検項目	○△×
髪の色(前)		まゆ		制服の下	
髪の色(横)		名札		ベルト	
髪の色(後)		学生手帳(カード)		ズボン(スカート)の長さ	
髪の色		つめ		靴下	
ピンポイント、どの方		ボタン・ホック		上靴	

マナー検定を振り返って 年 組 号 氏 名
 マナー検定はどうでしたか。ここでもう一度自分自身を振り返って、人としてのマナーを考えこれからの自分にプラスになるよう身につけていきましょう。

1. 緊張せずに検定を受けましたか。 緊張しなかった、少し緊張した、緊張した
2. 今日の検定はできましたか。 よくできた、だいたいできた、難しかった
3. 今日の検定で自分にまだできていないことは何ですか。
4. 日頃からマナーや作法を意識して、異国生活を送っていますか。
 いつも意識している、意識している、あまり意識したことはない、意識したことはない、
 どのようなことを意識していますか？
5. マナーはなぜ必要だと思いますか。
6. あなたは、今の自分は世の中に出て通用すると思いますか。
 ・人前や人知れぬ場所を区別できるだろうか。
 ・また何人かをして辱めてもらえないだろうか。
 ズバリ！あなたのマナー一度は何点？ / 100点
7. 今日の検定は、今後どんなことに生かそうですか。

マナー検定後に生徒が自己評価をする。検定の意義を理解し、次に向けて意欲的に頑張る生徒が多い *同校の資料をそのまま掲載

マナー検定では事前事後指導も徹底して行っている。と、教務主任の篠田桂子先生は話す。「検定前には外部講師によるマナー講話を開き、聞いた内容について話し合ったり、面接での質問の答えを書かせたりし

キャリア教育の一環としても位置付け、学校全体で指導している。中心となる取り組みは、同校が独自に計画・実施している「マナー検定」だ。社会生活における礼儀の大切さを伝え、望ましい話し方や作法を学ばせることで、人間関係を築く力を育むことをねらいとしている。検定は年2回。校長、教頭、主幹、教務主任が面接官となり、生徒は5人1組で校長室で面接を受ける。面接では「みんな頑張るAMBのAは何ですか」などの質問をして学校目標を確認し、その目標の下で今、自分が頑張っていること、そして将来の夢などを尋ねる。生徒は普段、校長室に足を踏み入れる機会があまりないこともあり、緊張した面持ち

でそれぞれ準備しながら面接に臨むという。「緊張していても、その場に相応しい話し方と作法で自分のことをしっかりと語ることが、高校受験でも社会に出てからも求められる大切な力です。面接の準備は、高校受験の直前に行うのではなく、1年生から計画的に行い、生徒の力を伸ばすべきです」(池之上校長)

評価は、担任が面接の様子を観察して行う。評価項目は入退室時の態度や話し方などで、ABCの3段階だ。1年生は初級、2年生は中級、3年生は上級とし、2回目の評価に基づいて認定する。B以上が合格で、Cだった生徒は追試を受けるが、これまで該当者は1人もいない。

●生徒指導での取り組み②
掃除の大切さを理解させることが自主性や責任感を育む

もう1つ重視する取り組みは掃除だ。生徒が主体となって清潔な環境をつくることで、自らの生活環境を整える力を育むのである。「私たちはとすれば、掃除で生徒にどの



鳥栖市立田代中学校 佐野公法 さの・きみのり
 生徒指導主任、理科担当。「周りが見えなくなるくらい一生懸命に頑張る生徒になってほしい」



鳥栖市立田代中学校 篠田桂子 しのだ・けい
 教務主任。「子どもの様子をしっかりとつかみ、先生方と共通理解を図り、取り組みを進めるよう心掛けている」



鳥栖市立田代中学校校長 池之上義宏 いけのうえ・よしひろ
 「自分の子どもを行かせたいと思えるような学校をつくりたい」

主体的な進路選択——自らの意思と責任で決める力を育てる

ような力を付けたいのかを考えず、きれいに
なったかどうかだけで評価し、指導しがちで
す。しかし、清掃活動は重要な自主管理能力
を育てる場です。そのことを教師が皆、理解
し、生徒の掃除に対する姿勢を育てたいと考
えています」(池之上校長)

毎年10月中旬の2週間は掃除強化週間と
し、掃除の重点事項を示して、なぜ掃除をす
るのかを理解させる。地域共同体における掃
除の重要性という歴史的意義から説き起こ
し、掃除をさぼるのがなぜいけないのか、ま
じめに掃除することの意味を説く。生徒指導
主任の佐野公法先生は次のように語る。

「生徒が自分の生活について考える場を、
教師が設定し、それを見取って評価や声掛け
が出来るかが、生徒の主体性や責任感を育む
上で大切だと考えます。掃除のような日常の
営みも、その意義をきちんと教えることで、
生徒にとって価値ある取り組みになるので
す。指導によって、掃除は『させられるもの』
ではなく、『自分たちでするもの』という意
識が浸透していくのを感じています」

掃除についての意識調査では、「掃除の手
順は分かっているか」「協力して取り組んで
いるか」などの項目で、どの学年も「いつも」
と「ときどき」を合わせて9割以上に達する。
自由記述欄には「いつもより集中できた」「校
舎がきれいだと心も落ち着く」といった意見
が書かれている。

●教科指導での取り組み

定期考査の学習計画を立てさせ 自律的な学習を促す

教科指導では、定期考査に向けた学習計画
を立てる取り組みを、11年度から全学年で年
4回の全ての定期考査で実施している。生徒
把握のために行う調査結果から、生徒の自己
統制力の低下が明らかになったためだ。

「本校の学力は地域の公立学校の中で上位
にありますが、調査で自己統制力が全国平均
を下回る結果となりました。また、アンケ
ートでも『計画を立てて継続的に学習している』
という生徒は約6割にとどまっています。』
今の生徒はメールやインターネット、ゲーム
などさまざまなものに囲まれ、勉強や部活動
に力を注ぐためには何かを我慢することにな
ります。生徒は学習が続かないのではなく、
誘惑に負けて学習をやめてしまうのです。計
画通りに学習に取り組めた生徒は、たとえ結
果に結び付かなくても、『計画通りに出来た』
という達成感が次の意欲につながるのではな
いかと考えました」(池之上校長)

「定期テストのパッケージ化」と名付けた
取り組みの手順は次の通りだ。

①定期考査2週間前に出題範囲が確定した
ら、学年集会などを利用して「テストガイ
ダンス」を実施し、教科担任が出題範囲と
達成目標を説明する。生徒はそれを聞きな

がら、大事だと思う点をシートに書き込む。
②各教科の出題範囲と、内容のまとめりごと
に達成目標を示した「ナビゲーション・シー
ト」を配布。生徒は達成目標一つひとつに
対して理解度を4段階でチェックする。

③自分の理解度を踏まえて、各教科の目標を
決め、学習計画を立てる。計画表の様式は、
2週間の全教科の計画が一目で分かる「カ
レンダー式」と、1日ごとに取り組む教科
や内容などを記す「日めくり式」(P.20図
2)があり、生徒は好みに応じて選ぶ。また、
どちらの計画表にも「今日のがまん」とい
う欄があり、1日の学習目標、計画を達成
するためにその日、我慢するものを自分で
決めて決意表明をする。

④定期考査終了後は、ナビゲーション・シー
トの振り返りをし、自分が立てた目標の達
成状況を確認する。生徒は点数や順位ばか
りを気にしやすいが、目標や計画が達成で
きたかという視点でテストを振り返らせる
ことで、自己統制力や計画立案力、遂行能
力を客観的に評価させる。

取り組みの最終目標は、生徒が自分の学び
のデータを振り返りながら、「これまでの自
分の勉強の質と量は○○だったけれど、今回
のテストではもう少し上位をねらうために、
●●を増やし、学習計画も△△のように改善
しよう。更に、■■を我慢しよう」と自ら計
画を立案、実行できるようにすることだ。

図2 「日めくり学習計画表」

取り組む教科と内容、時間などを1日単位で詳細に記載する。「今日のがまん」にはメールやインターネットを挙げる生徒が多い
*同校の資料をそのまま掲載

「社会に出れば、自分のやりたい仕事だけ
が出来るわけではありません。むしろ会社や
組織の要望に従うことの方が圧倒的に多く、
やりたいことが出来るようになるまでには、
多くの我慢を強いられます。また、周りがそ
の人に求めていることは、本人が考えるより
もはるかに多く、仕事によって自分でも気付
かない力が引き出されることもあります。自
己統制力は社会をたくましく生きていく力の
土台になるのです」(池之上校長)

●生徒把握の工夫

調査結果を学年団で分析し
生徒の内面を浮き彫りにする

生徒の自立や社会性を育む取り組みをさま

さまざまに行う同校では、生徒の成長や心理状態
の把握にも力を注ぐ。教師による見取りも重
視するが、客観的な把握もするために、前述
の掃除に関する意識調査、学校独自の「生徒
目標アンケート」、学力・知能偏差値、学習
適応性検査(AAI)、学級集団の状態を把
握するための心理検査のQ-Uなどを行う。
「キャリア教育の視点でどれだけ生徒が成
長しているかを測るためには、教科学力に加
え、多角的なデータを積み上げ、生徒の意識
や身に付けた力の到達度を客観的に把握して
いく工夫が必要です」(池之上校長)

生徒目標アンケート(年4回実施)は、生
徒の行動目標である「AMB」の達成状況を測
る。質問項目は、「将来の夢や目標を持つ

ているか」「笑顔で元気なあいさつをしてい
るか」「一生命、掃除に取り組んでいるか」
「計画を立て、継続的に学習しているか」の
4つ。調査結果は全校平均、学年別平均、経
年変化をグラフ化し、生徒にも公表する。友
だちや先輩と比べて自分はどうなのかを知る
ことで、「みんな、夢を持っているんだ」「平
均よりもあいさつが出来ていないから頑張ろ
う」というように、生徒が自分を客観的に見
つめ、主体的な生活改善を促すのが目的であ
る。

また、これらの調査結果は教師の目線合わ
せのツールにもなっている。学力・知能偏差
値、AAI、Q-Uなど、調査結果を1つに
まとめて、生徒一人ひとりの状況を多角的に
把握できるようにしている(図3)。調査結
果が出揃う9月には、各学年団で集まって
データを検証し、生徒個別にどのように支援
していくのかを話し合う。

生徒が回答したアンケートは自己評価であ
るため、自分に厳しい生徒の数値は低くなり、
自分を客観的に評価できない生徒の数値は高
くなる場合もある。事実、データを見た担任
が「このクラスはこれほど良くない」「すこ
く良いクラスなのに」と、実際の姿との違い
を感じることも少なくないという。

「データが現状を正確に反映するものでは
ないことは確かですが、生徒の『思い』は表
れます。教師が見た生徒の様子と、生徒自身

主体的な進路選択——自らの意思と責任で決める力を育てる

図3 4つのテストの分析による実態把握 知能検査を切り口とした分析の例

氏名	知能検査 偏差値	NRT 学力 偏差値	AAI・所属群				Q-U・所属群					支援の視点	個別の支援策	
			AAI	I バランス	II 学力向上	III 学習 適応性	IV 個別支援	所属学級 満足度	満足群	非承認群	侵害 行為群			不満足群
A	50	36	47	○									NRT	苦手教科の個別カウンセリング
B	63	50	46	○					○				Q-U	担任・教科担任による承認 認める 話を聞く
C	70	54	70	○									NRT	苦手教科の個別カウンセリング 得意科目の伸長
D	51	38	56		○					○			Q-U・NRT	侵害行為群は要注意 丁寧な対応が必要
E	34	31	39								○		Q-U	担任・教科担任による承認
F	61	48	60	○									NRT	苦手教科の個別カウンセリング 自己肯定感を上げる

- 分析の手順**
1. 知能検査、NRT（標準学力検査）、AAI（学習適応性検査）、Q-Uデータの結果を、生徒ごとに一覧表にする。今回は、知能検査でアンダーアチーバー群の生徒を抽出
 2. 他の3つのテストの所属群を見て、生徒を支援する糸口を「支援の視点」として焦点化
 3. 「支援の視点」に基づいて「個別の支援策」を立てる
 4. 更に、データの数値を見て、苦手克服、長所の伸長などの力点を明確にする

上記の分析は、知能検査の結果を軸として、課題のある生徒を見付け、他のテスト結果と照らし合わせて課題を探り、支援策を考えた。この方法では、特に支援の必要がない生徒も明確に出来る * 同校の資料を基に編集部で作成

学校生活のあらゆる場面を通して、生徒の主体性の育成に取り組み田代中学校。一連の取り組みにより、夢や目標を持ち生活態度も整った生徒が増えている。生徒目標アンケートの結果を見ても、将来の夢や目標を持っている生徒は全学年平均で79%、あいさつが出来ている生徒は91%、一生懸命掃除に取り組んでいる生徒は87%に達している。

今後は、校区内の3つの小学校にもAAI、Q-Uを導入し、調査結果を小中で共有して9年一貫の連続性の中で子どもの状況を把

の思いの差から、必要な指導が見えてくるのです」（池之上校長）

例えば、偏差値が高いにもかかわらず自分の能力に自信を持っていない生徒には「苦手教科の個別カウンセリング、自己肯定感の向上」、学力が高いが学級満足度が低い生徒には「ストレスの発散」といった支援策を立てて担任間で共有している。

キャリア教育やデータ共有の仕組みを小中連携に活用

校長が考える進路選択力を育む工夫

勉強だけをしていたら、その範囲には力を発揮するかもしれませんが、社会観が狭く、変化に柔軟に適應する力は不足しがちです。予測不可能な世界をたくましく生きていく力を付けるため、自分を客観的に見つめ改善する訓練を、教育活動のさまざまな場面で意図的・計画的に仕掛けることを重視しています。

自分で必要なものを選ぶ力、欲望を制御して計画を遂行する力、自分を客観視する姿勢を身に付け、どうすればよりよい自分に近づけるのか考え、主体的に行動できる生徒を育てたいと考えています。

握し、指導に生かしていきたい考えた。これに先立ち、12年度はマナー検定を各小学校で始めた。

「小学校時代にはきちんとあいさつができ、クラスに溶け込めていた子が、中学校に入った途端、出来なくなってしまうというケースがあります。それは子ども自身の変化もあることながら、教師のかわり方によらつきがあるからとも考えます。9年間で子どもの成長を把握し、小・中学校の教師が共通理解を持って指導に取り組むことで、生徒に何が必要なかがより鮮明に見えてくると期待しています」（池之上校長）